



- ①凍霜害やカラマツが広範囲に見られ、園地や品種により結実量が少ない園地が見られます。  
中心果で結実量が確保できない場合は、生育の良い側果で対応し、生育が進むとともに見直し摘果を随時行うように、最終的に適正着果となるようにしましょう。
- ②有袋ふじに積極的に取り組み、所得の向上を目指しましょう。
- ③山手などで、一部モニリア病の実腐れが散見されます。そのままにしておくと株腐れの原因となりますので、見つけ次第、その幼果のツルが残らないように摘果をしましょう。また、園地近くに発生源がある場合は除去しましょう。
- ④SSの走行には十分注意し、けがや事故の無いように散布しましょう。

**摘果について**

- ・本年は、凍霜害や開花期間中の不順天候により、全般的に中心果の欠落やカラマツが多く見られます。被害があるからといって予備摘果を遅くすると、品質に影響するだけでなくジュンドロップや隔年結果の原因にもなります。着果量の多い園地から早めに手をかけていくなど計画し、一つ成り摘果（予備摘果）は6月上中旬頃までに終わるように頑張りましょう。
- ・落花20日後頃からサビなどがわかりやすくなってきますので、果実品質をよく確認しながら、7月上旬頃までに随時仕上げていきましょう。側果で着果量を確保しないといけない園地も見受けられます。本年は随時品質を見極め、見直し摘果をこまめに行いましょう。
- \*着果量が十分確保できる園地では、最終的に成らせ過ぎとにならないよう注意しましょう。

**薬剤散布**

7月初めの薬剤散布が7月初めに散布できるように、特別散布などを行い調節しましょう。

回数 散布量	散布時期	散布が生態より 早い対策	参考日	対象病害虫	基準薬剤					防除の要点
					薬剤名と混用順序	倍数	1,000g当	収穫前 日数	使用 回数	
6 4200以上	ふじの 落花20日後  (6月上旬)	5/28  特別散布 落花25日頃 6/3 雨前チオノック	6/1 ~6頃	黒星病、斑点落葉病	展着剤	600	1.67kg×1	30日前	3回	クワコナカイガラが多い樹では落花10日~20日後頃に胴木洗いを 行いましょう。
				すす点・すす斑病	ジマンダイセン水和剤					
うどんこ病、腐らん病	スプラサイド水和剤	1,500	667g×1	30日前	2回					
黒点病、ハダニ類	カルマツチ	770	1.3kg×1	-	-					
クワコナカイガラ	クレフノン	100	10kg×1	-	-					
7 5000	ふじの 落花30日後  (6月中旬)	6/11 ~15頃	6/11 ~15頃	斑点落葉病、黒星病	展着剤	600	1.67kg×1	30日前	3回	散布が前倒しとなり、生態とズレが生じた場合は、  チオノックF 500倍など  の特別散布により調整し、 7月初めの散布が7月初めに散布されるようにしましょう。
				すす点・すす斑病、黒点病	ジマンダイセン水和剤					
腐らん病、炭そ病、褐斑病	ダイアジノン水和剤	1,000	500g×2	30日前	4回					
キンモン、シャクリムシ	カルマツチ	770	1.3kg×1	-	-					
モモンクイガ	クレフノン	100	10kg×1	-	-					
8 5000	落花40日後  (6月下旬)	6/20 ~24頃	6/20 ~24頃	斑点落葉病、黒星病	無ボルドー方式					散布でお困りの方は 営農係までご相談ください！！
				すす点・すす斑病、褐斑病	展着剤	1,200	835g×1	14日前	4回	
黒点病、腐らん病、炭そ病	オキシンドーWSB	4,000	250g×1	前日	3回					
ハダニ類、モモンクイガ	モスピラン顆粒水溶剤	770	1.3kg×1	-	-					
キンモン、キンモン	カルマツチ	-	-	-	-					
9 5000	7月初め  (7月上旬)	7/1 ~5頃	7/1 ~5頃	斑点落葉病、黒星病	展着剤	1,200	835g×1	14日前	4回	エコマイトは、成虫に対して効果はないが、卵~若虫に効果が高く、また次世代抑制効果(産卵ふ化抑制)が高い剤です。 発生初期に散布することで長期間抑制しますので、発生に応じて6月下旬~7月上旬頃までに散布するようにしましょう。
				すす点・すす斑病	オキシンドーWSB					
炭そ病、褐斑病、ハダニ類	アーデントF	2,000	250ml×2	前日	3回					
モモンクイガ、キンモン	エコマイト顆粒水和剤	2,000	250g×2	7日前	1回					
キンモン、シャクリムシ	カルマツチ	770	1.3kg×1	-	-					
10 5000	7月半ば  (7月中旬)	7/14 ~18頃	7/14 ~18頃	斑点落葉病、黒星病	展着剤	1,200	835g×1	14日前	4回	
				すす点・すす斑病、腐らん病	オキシンドーWSB					
炭そ病、褐斑病、ハダニ類	フェニックスF	4,000	250ml×1	前日	2回					
モモンクイガ、リンゴコカクモン	-	-	-	-	-					
キンモン、キンモン	-	-	-	-	-					

1. 散布ムラの無いようにしましょう (SSの速度・散布量の見直し、樹の混み具合を解消するなど)
2. 霧、朝露などで葉が濡れている場合は乾いてから散布しましょう。
3. 7月上旬の薬剤は散布時期が合うように特別散布などで調整しましょう。

**有袋栽培について**

**メリット**

- ・有袋栽培では、着色向上、ツルワレの減少などスソ物が少なくなり収量も安定しやすいです。
- ・無袋栽培より作業時間はかかりますが、現在一発袋が普及してきており、二重袋よりは作業時間が少なく済みます。

	JA1箱当平均精算単価		差額	袋1枚当 単価向上分	100箱当 収入向上分
	無袋	有袋			
R01年産	4121	5910	1789	22	178,900
H30年産	3165	5513	2348	29	234,800

**作業コスト**

- ・被袋作業時間は、生産量100~150箱/10aで、おおよそ5~10日/10a/1人かかります。
- ・除袋作業は、一発袋を使用した場合は、おおよそ8時間程度/10a/1人かかります(基本的に除袋は午前11時~午後2時頃までです)。
- ・袋のコストは、10a当たり100把使用すると、二重袋でおおよそ32,000円~45,000円、一発袋で37,000円~49,000円程度です。

**一発袋のススメ**

一発袋は一度で除袋するため作業効率が良いです。ただし、除袋後から葉摘みを開始しますので、除袋前には葉をとらないでください(ヤケ防止)。  
除袋作業時間：二重袋の30~60%程度省力化。  
例年9月20日~25日頃の除袋で、除袋後、天気にもよりますが2~3日程度してから葉摘みを行います。